



たっち

教育だよりの「たっち」は、みんなの心や輝きへの「タッチ」を通して、「たちかわ」の地域・家庭・学校が手をつないで、生涯を通じた学びを推進したいという思いを込めて付けた名前です。

平成20年
(2008年)
年2回発行

6/10

第11号

編集・発行／立川市教育委員会

〒190-0022 立川市錦町3-2-26

☎042(523)2111(市役所代表)

◀立川市ホームページ▶

<http://www.city.tachikawa.tokyo.jp/>

教育委員からの メッセージ

市民力と協働した 学校づくり



委員長 古木 光義

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、教育に関する事務を処理するために、地方公共団体の長から独立して設置された合議制の執行機関です。

立川市教育委員会は、市長が

市議会の同意を得て任命した五人の委員で組織されており、委員の任期は四年。委員長は委員の中から選挙によって選ばれ、会議を主宰し委員会を代表します(任期は一年)。また、委員会の権限に属する全ての事務を管理執行するために、委員の中から教育長を選出し、任命します。教育委員会の会議は定例会と臨時会があり、定例会は原則として毎月第二・第四木曜日に、臨時会は随時開催されます(原則公開)。

共に歩む教育

委員長職務代理者 牧野 征夫

市民の皆さんに「教育委員の顔が見えていますか」と問えば、「いい見えません」と言われるのが大部分の答えでしょう。立川の教育はそうあってはならないのです。教育委員は市の教育行政の一端を担っているのですから。「絵に描いた餅」のようになつてはいけません。

市民の皆さんと、いつでも本音で語り合える環境が大切なのです。近年、教育の乱気流が巻き上がり「学力の低下」「規範意識の低下」「いじめの増加」「モンスターペアレンツ」等と言った課題を突きつけられ、日本の学校教育の屋台骨が激しく揺れ動いています。こうしたことが、子供たちの将来にどんな影響が覆い被さってくるのでしょうか。教育は薬を飲んだからすぐ良くなるものではないのです。



教育土壌を耕す



教育委員 中村 祐治

教育委員公募にあたり、過去の東京と横浜での仕事の成果をふり返ってみました。一から仕事を始めた横浜では、耕された土壌で仕事をした東京と比べ成果がなかったと思っていたが、いまふり返ると地味であるが地に着的成果があったのである。横浜では、仕事の土壌を自分で耕したからだと強く感じた。

子どもにとり、耕された土壌の上で成長していくのではなく、厳しくはあるが成長の糧を得る

今こそ、市民の皆さんと「教育の持つ不易」について考え「子供にとっての不易の教育とはなにか」を議論する市民活動の輪を広げて行きたいのです。市民の皆さん！一緒に立川市の教育を考えようではありませんか。

子ども大人も共に学び合う 「大好きな街立川」



教育委員 宮田 由香

立川国際芸術祭の文化ボランティアの体験を通し、多くの方々と出会いました。

土壌を自分で耕すことが大切ではないか。発達途上の子どもは、自分で耕すことに未熟さがあり、うまくいくこともあるが失敗もある。失敗から学んだ人への優しさなどは本物となり、将来への確かな力となっていく。

そのとき、子どもが自発的に行動する姿を保護者・地域の方々及び教師が暖かな目で黙って見守り、必要なとき必要な手助けをするのが健全な成長を促す良薬であると考えます。

良薬には、時には苦い薬も必要である。苦い薬を口から出さず自分で飲めるよう援助をするのは、心を耕す姿が見守れる目の届く地域内が望ましい。立川市は地域力と学校力が相互に連携し大きな教育力になる基盤がある。この基盤を将来に力強く羽ばたく子ども達の成長を生かす力とすることが大切である。

んか。そのために、教育委員会が行っている「教育フォーラム」や小中学校が実践している研究発表会、各校の学校行事等には是非参加し、忌憚のない意見を発してみることから始めませんか。

海外から立川に来たひとりの

芸術家との出会いは、市民との創作活動の中で街の様々な可能性と、私の夢を引き出してくれた心に残るものとなりました。

芸術家の要求は、混乱を生みましたが、やがて共感を呼び街の中に調和した形を創りました。この体験は私に不思議な余韻を残し、学校での知識や技術を得る勉強や、社会人として経験したこととは違った人間性にせまるものを感じました。

先日、当時お世話になったかと久しぶりにお会いすることがあり、その日にもこやかに迎えてくださる姿に、見守っていただいていたことに気付き、子どものような嬉しさに恥ずかしくなつていました。立川の芸術や文化を支え、守り続けてこられた方々に出会い立川の文化にふれることで心豊かな時をすご

「たっち」発刊から5年



教育長 大澤 祥一

市民の皆様は学校での特色ある取り組みや生涯学習情報などをお知らせするために教育情報誌としての「たっち」を発行してから今年でまる5年がたちました。毎回、子供たちが学校でさまざまな活動を通して生き生きと成長していく様子などをわかりやすくお伝えすることを心がけて毎年6月と12月の2回発行してきました。

初刊の平成15年は現在の学習指導要領が完全実施されて2年

しました。

いつもこどもたちは、6月の雨を浴びた若芽のやわらかな草色のようにすがすがしく、かわいらしくまた今年も子どもたちの暑い夏がくる予感に、私は生き生きとすごすことができます。

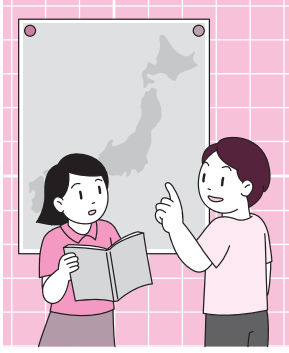
自分は能力の限界を知る現実を突き付けられますが、教育委員会の素晴らしい方々との出会いを大切に、こころをつなぎあい立川の新しい教育活動への一助となるよう微力ではありますが努力する所存です。まちのボランティア活動に参加したことで、これまでを創ってこられた心優しいみなさまと出会い、思いやりとやさしさを教えていただきました。「まちの力」に心より感謝いたしますとともに今後も変わらぬご指導をお願い申し上げます。教育委員のメッセージとさせていただきます。

目に当たり、地域の皆様には完全週5日制導入によって休みとなる土曜日を子供たちが有効に活用できるよう居場所作りのためにも大変ご尽力いただきました。現在学校への保護者や地域の皆様の支援の輪が大きく広がり、放課後子ども教室も全市に広がりを見せています。

これらの市民の支援の輪の広がりは居場所作りなどを通しての現学習指導要領の副産物的なうれしい効果といえるかもしれません。

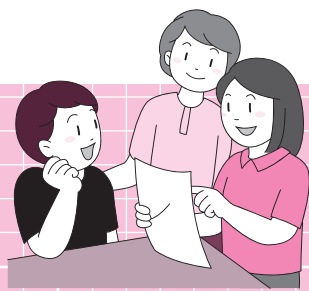
新たな学習指導要領が告示され平成21年度から一部教科で前倒して実施されることになりました。学校と保護者、地域社会の連携と協力がますます必要とされる中、今後とも学校教育や生涯学習等についてのきめ細かな情報の提供に努めてまいりますので、よろしくお願いたします。

凡例 ● 申…申し込み 問…問い合わせ



平成20年度 小・中学校 研究発表会

～発表会にむけて 各校の取り組み～



今年度も立川市内の小・中学校は元気に、児童・生徒の学力の向上を目指して、全小・中学校で指導方法の工夫・改善を図る教育活動を行っています。

平成二十年度は十九校が研究発表を行い、日頃の取組みや成果を発表します。教員対象の研究発表ですが、それぞれの授業や発表を通して、子どもたちの様子や先生方の指導における工夫を見る事ができるよい機会でもあります。

市民の皆様のお待ちしております。ぜひ、ご参加ください。



確かな学力を支える心と体の健康づくり

生き生きとかわり合う子どもたちをめざして

第十小学校 相田修治校長
(平成20年11月7日発表)



意欲的に課題に取り組み、自分の力で解決する児童の育成

西砂小学校 鎌倉知雄校長
(平成20年10月31日発表)



自ら学び自ら考える児童の育成

「書くこと」を通して自分の思いや考えを、確かに表現する子どもをめざして

柏小学校 高橋一伸校長
(平成20年10月24日発表)



生徒の主体性を伸ばす自己評価

「授業をはじめる全教育活動における自己点検・自己評価の実践」

立川第四中学校 伊藤洋英校長
(平成20年10月16日発表)



規範意識の向上から、豊かな心を育成し、誰もが気持ちよく過ごせる学校づくりを行う

立川第三中学校 小沼孝行校長
(平成20年10月10日発表)



豊かな学力を支える心と体の健康づくり

生き生きとかわり合う子どもたちをめざして

第十小学校 相田修治校長
(平成20年11月7日発表)



意欲的に課題に取り組み、自分の力で解決する児童の育成

西砂小学校 鎌倉知雄校長
(平成20年10月31日発表)



自ら学び自ら考える児童の育成

「書くこと」を通して自分の思いや考えを、確かに表現する子どもをめざして

柏小学校 高橋一伸校長
(平成20年10月24日発表)



生徒の主体性を伸ばす自己評価

「授業をはじめる全教育活動における自己点検・自己評価の実践」

立川第四中学校 伊藤洋英校長
(平成20年10月16日発表)



規範意識の向上から、豊かな心を育成し、誰もが気持ちよく過ごせる学校づくりを行う

立川第三中学校 小沼孝行校長
(平成20年10月10日発表)

共に学び、一人一人が輝く授業の創造

「国語・他教科での国語力の発揮」

体育・筋道立てての国語力の発揮

新生小学校 松野 登校長
(平成20年11月18日発表)



学び合いを取り入れた教育活動による向上心の育成

「小さな中学校の学びの共同体」づくり

立川第一中学校 鈴木達夫校長
(平成21年3月5日発表)



読解力・思考力・表現力・発信力・集中力の育成

「学力向上をめざして」

立川第七中学校 浅野 博校長
(平成21年2月18日発表)



自分に自信をもち、楽しみながら人とかわかることのできる児童の育成

「英語活動を通して」

第八小学校 田中洋子校長
(平成21年2月16日発表)



障害の有無にかかわらず、特別な教育的ニーズにこたえる教育体制づくり

第二小学校 山下理恵校長
(平成21年2月6日発表)



自分の考えを書き表す力を育てる

けやき小中学校 山本正樹校長
(平成21年2月5日発表)



認め合い、学び合い、高め合う児童の育成

「あたたかい言葉や笑顔があふれる学校づくりを通して」

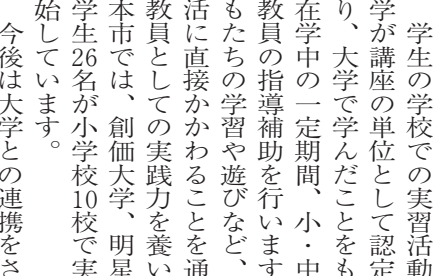
第三小学校 児玉光郎校長
(平成21年1月30日発表)



学び合いを取り入れた教育活動による向上心の育成

「小さな中学校の学びの共同体」づくり

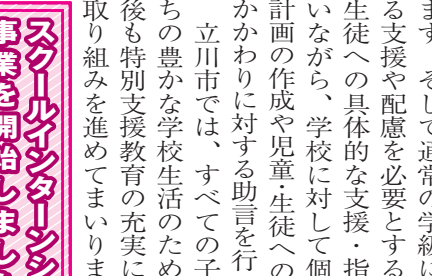
立川第一中学校 鈴木達夫校長
(平成21年3月5日発表)



読解力・思考力・表現力・発信力・集中力の育成

「学力向上をめざして」

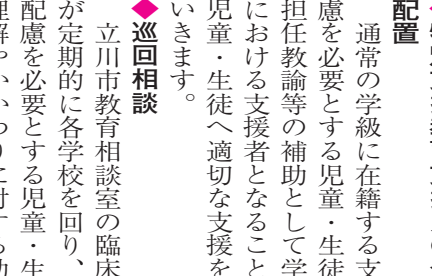
立川第七中学校 浅野 博校長
(平成21年2月18日発表)



自分に自信をもち、楽しみながら人とかわかることのできる児童の育成

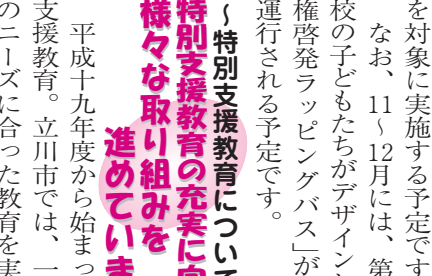
「英語活動を通して」

第八小学校 田中洋子校長
(平成21年2月16日発表)



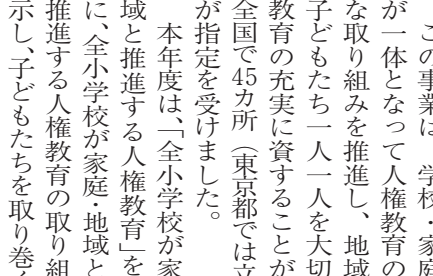
障害の有無にかかわらず、特別な教育的ニーズにこたえる教育体制づくり

第二小学校 山下理恵校長
(平成21年2月6日発表)



自分の考えを書き表す力を育てる

けやき小中学校 山本正樹校長
(平成21年2月5日発表)



認め合い、学び合い、高め合う児童の育成

「あたたかい言葉や笑顔があふれる学校づくりを通して」

第三小学校 児玉光郎校長
(平成21年1月30日発表)

【文部科学省 人権教育総合推進地域事業】の指定を受けました

この事業は、学校・家庭・地域が一体となって人権教育の総合的な取り組みを推進し、地域全体で子どもたち一人一人を大切にした教育の充実を目指すことが目的で、全国で45カ所（東京都では立川市）が指定を受けました。

本年度は「全小中学校が家庭や地域と推進する人権教育」をテーマに、全小中学校が家庭・地域とともに推進する人権教育の取り組みを提示し、子どもたちを取り巻く教員、保護者、地域の方々の人権感覚を高め、子どもたちの豊かな心の育成に努めていきます。教育委員会では、12月に人権教育推進のイベント「やさしい心で社会のために（仮）」を児童・保護者、市民の皆様を対象に実施する予定です。

なお、11・12月には、第三小学校の子どもたちがデザインした「人権啓発ラッピングバス」が市内で運行される予定です。

◆特別支援教育について④◆
特別支援教育の充実に向けて様々な取り組みを進めています！

平成十九年度から始まった特別支援教育。立川市では、一人一人のニーズに合った教育を実施し、支援を必要とするすべての子どもたちに適切な指導を行うことを基本的な考え方として、様々な取り組みを進めています。

◆特別支援教育の取り組みについて③◆
通常の学級に在籍する支援や配慮を必要とする児童・生徒に対する担任教師等の補助として学校生活における支援者となることにより、児童・生徒へ適切な支援を進めています。

◆巡回相談
立川市教育相談室の臨床心理士が定期的に各学級を回り、支援や配慮を必要とする児童・生徒への理解やかわりに対する助言を行います。

◆巡回指導
立川市立学校の特別支援学級教員が「特別支援教育アドバイザー」として各学級の要請に応じて回ります。そして通常の学級に在籍する支援や配慮を必要とする児童・生徒への具体的な支援・指導を行います。また、学校に対して個別指導計画の作成や児童・生徒への理解やかわりに対する助言を行います。

立川市では、すべての子どもたちの豊かな学校生活のために、今後も特別支援教育の充実に向け、取り組みを進めてまいります。

◆スクールインテグレーション事業を開始しました！
スクールインテグレーション事業とは、スクールインテグレーション事業とは、スクールと近隣の教育委員会と連携し、教員を目指す学生が、小・中学校の教育活動の中で実習する制度です。

学生の学校での実習活動は、大学が講座の単位として認定しており、大学で学んだことをもとに、在学中の一定期間、小・中学校で教員の指導補助を行います。子どもたちの学習や遊びなど、学校生活に直接かわかることを通じて、教員としての実践力を養います。

本市では、創価大学、明星大学の学生26名が小学校10校で実習を開始しています。

今後は大学との連携をさらに拡充し、将来の教員となる学生の養成に協力していきます。そして年齢の近い「お兄さん先生」「お姉さん先生」との触れ合いを通して、子どもたちの豊かな心をはぐくむとともに、学校組織の活性化を図り、立川市の小・中学校の教育の充実を進めてまいります。

図書館探検 ⑩

図書館は、
30周年を迎えます

昭和53年7月1日、「立川市図書館条例」を制定し、公民館図書室が図書館となり、図書館活動を開始しました。そして、その10日後の7月11日には、西砂図書館が開館しました。さらに翌年の1月30日に多摩川図書館と、次々に地区図書館が開館しました。

立川市の目指した図書館は、地域に根付いた市民の図書館であり、①身近なところにある図書館、②暮らしに役立つ図書館、③親しみやすく利用しやすい図書館、④誰でも利用できる図書館、⑤読書の自由を保障する図書館、を図書館づくりの5本の柱としたサービスです。昭和56年度には、104万冊の貸出し冊数を記録し、市民一人当たりの貸出しは全国一となりました。中央図書館が開館する前は、8つの地区図書館と移動図書館とで、図書館サービスネットワーク

この7月、図書館は30周年を迎えます。この大きな節目に、新たな図書館サービスを進めてまいります。いつでも、どこでも、だれにでもという目標は、今後も図書館活動の基本としてまいります。地区図書館は、地域の身近な図書館、中央図書館は地区図書館を支え、より専門的な図書館と、地区図書館と中央図書館が相互に、それぞれの特色を生かした図書館サービスを行ってまいります。

中央図書館(528) 6800

小・中学校校舎耐震補強工事

教育委員会では、児童・生徒の安全・安心な学校生活を確保するとともに、地域の防災拠点としての役割を果たすため、「立川市立小中学校校舎耐震化推進計画」に基づき、小・中学校校舎の耐震補強工事を平成17年度から実施しています。

20年度は、三小(南校舎)、五小(南校舎)、九小(南校舎)、若葉小(北校舎)、幸小(北校舎)、大山小(南校舎)、一中(南校舎)、三中(北校舎)、七中(南校舎)及び九中(南校舎)の工事を実施

施する予定です。この内、三小五小、九小及び大山小は、引き続き21年度に、七中は22年度に第二期工事を実施の予定です。今年度工事が予定通り完了すると、耐震補強が必要とされた25校のうち、15校が整備されることとなります。

なお、耐震補強工事は夏休み期間中に重点的に実施し、騒音やほこりの発生、工事車両の通行等には十分配慮して行います。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

泉市民体育館の
室内プールが再開しました

泉市民体育館(泉町786-11)の室内プールが、6月初旬に再開いたしました。これは、昭和55年開館して以来27年が経過し、老朽化が顕著な室内プール内の換気ダクト(配管)の腐食が激しく、危険性も高まったことから、これを交換するとともに、壁や手すり等の塗装や浴槽や採暖室等の改修を行い、市民の皆様になお一層に利用しやすい施設に生まれ変わりました。

この換気ダクトの改修は、約3ヶ月の期間をかけて完成したもので、プールに入场されて天井を見上げると、真新しいダクトが目に入る事と思います。

泉市民体育館のプールは、25メートル×15メートル×1.1～1.3メートルの温水プールで利用時間は、冬期(10月から翌年の5月まで)は、午前10時から午後9時まで、夏期(6月から9月まで)は午前9時から午後9時までとなっております。利用料金は、2時間を単位に大人400円、こども100円を基本とし、そのほか割引制度があります。

プールの利用では、水泳競技としての利用のみならず、自分自身の健康の保持・増進に寄与するためのスポーツ志向が高まりを見せていることから、市としては水中ウォーキングやエクササイズ事業を展開し、健康に役立つスポーツ活動の推進などの時代の要請に応じた、新しい事業も展開しております。

市内には、泉および柴崎の2つの体育館があり、2館とも交通の便に恵まれていることから、市内の利用者だけでなく、広く多摩地域を中心とした市外利用者や各種の大会にも多く利用されています。平成18年度は、2館合わせて約50万人の利用者があり、市民が「だれでも」「いつでも」「どこでも」

祝 教育委員会表彰

立川市教育委員会表彰規定に基づき、以下のとおり表彰を行いました。《敬称略・順不同》

堀江明史・学校給食運営審議会委員として学校給食行政の推進のために協力いただきました
横幕玲子・橋本順子・國井寿美枝・竹内英子・公民館運営審議会委員として地域活動の実践のために活躍されました

増田淑美・長年にわたり文化財保護審議会委員としてご尽力いただき、特に近世村落史・女性史において顕著な功績をあげられました
加藤哲・石田守・伊澤孝幸・矢野むつみ・和地久男・体育指導員として地域住民の健康増進のために貢献されました

教育委員会では、有益な調査・研究、特に模範とする行為、教育・文化の振興における功績、体育その他の文化活動において特に優秀な成績をあげた個人または団体を、規定に基づき表彰しています。

自薦・他薦を問わず、随時行いますので、詳しくはお問い合わせください。

教育総務課・内409

見影橋公園にミニ・スポーツ広場オープン



市民の皆さんとの協働により計画づくりをした、見影橋公園の整備が完了し、公園内に小さなスポーツ広場がオープンしました。面積約260㎡、バスケットのリングとフットサルのゴールが、各1基設置されており、子供たちが、個人やグループで自由に利用できるスポーツ広場です。利用にあたり申請等は必要ありませんが、お互いにルールを守り、みんなで譲り合ってください。

利用時間は、4月から10月までは9時から17時まで、11月から3月までは10時から16時までです。

立川の歴史と文化財 ⑪

砂川十番組大幟

江戸時代の末期から明治時代の初期にかけて、武蔵野の村々では神社の祭礼の時に、豊作を祈って幟を掲げていました。立てられることが少なくなった現在でも、幟や部材は旧家の土蔵などに保管されていることがあります。立川市内にもいくつかの幟や部材が残されており、その中でも砂川十番組大幟はその大きさと保存状態の良さから、平成3年に市指定有形文化財に指定されました。

この幟は嘉永元年(1848)に砂川十番組(現在の若葉町)の氏子により作られました。幟旗は木綿製で、その大きさは、長さ約14.6m、幅約2mで、幟旗を取り付ける竿の長さは約22mです。「関東一の大幟」と伝えられていますが、他の村の幟の大きさがはつきりとは判らない

ので、その真偽のほどは不明ですが、かなり大きなものであるのは間違いないようです。幟には大きく「御祭禮(おんさいれい)」と墨で書かれています。これは谷保村(現国立市)の書家本田寛庵の手によるものです。高い幟を立てた時に下から見て3つの文字が同じ大きさに見えるように、上の文字ほど大きく書かれています。

親獅子がわが子を深い谷に突き落として這いあがってきた子だけを育てる、「獅子の子落とし」の様子が彫られています。



現在、歴史民俗資料館では、ラウンジにて、砂川八番組と十番組の飾り彫刻を展示しています。どうぞご来館ください。

学習施設・体育施設の使用予約は
予約システムで!

市は、学習施設・体育施設の使用予約の申し込みや空き情報の閲覧などを、パソコンや携帯電話などから行える「立川市施設予約システム」を稼働しています。

対象施設は、学習施設は地域学習館・女性総合センター、体育施設は泉市民体育館・柴崎市民体育館・野球場・庭球場・グレートボール場・フットサル場などです。

利用者登録は
お済みですか

・学習施設 施設を使用する場合はシステム利用者登録が必要です。登録を済ませていない団体は、学習施設の窓口で登録してください。

・体育施設 従来からの「体育施設予約システム」をご利用の方は、登録の必要はありませんが、新たに利用を始める方は、泉市民体育館か柴崎市民体育館で登録してください。

くわしくは、市のホームページをご覧ください。

生涯学習推進センター
(527) 5757